

## 実践 漢方ガイド 日常診療に活かすエキス製剤の使い方

中野 哲, 森 博美 監修

＜書評者＞ 秋葉哲生 (あきば伝統医学クリニック院長)

想像するに著者らは大垣市民病院において医療用漢方製剤を用いた臨床経験で一定の成功を収め、その成功の土台を踏まえて、これからの日本の漢方診療のあるべき姿を具体的な日常診療の位相で提言したものが本書であるといえるのではないかな。

本書にあって類書にないものとして、EBM に対する明確な批判の立場を表明していることである。1980 年代から向かうところ敵なきがごときエビデンス万能主義に対し、ひたすらひれ伏すだけでは漢方医学の長所が失われるとの主張はまさしく正鵠を得た発言である。日本東洋医学会にあって「漢方医学の EBM 2002 年中間報告」、および「2005 年最終報告」をしゃにむに取りまとめた評者などは、この文章を発見して思わず快哉を叫んだほどだ。

総論では「証」についてかなり丁寧に解説されているが、著者はほんとうのところは「証」がお嫌いのようなのである。あるいは持て余しているのかもしれない。「薬物学からの方剤選択」の項に、「薬物

学から有効と思われる病態を選択するという、従来とは逆の発想のほうか、漢方医学にそれほど精通していない臨床医にも使用できる可能性があるのではないだろうか」と述べている。その例として、瘀血の徴候を表している患者には、虚実のおおまかな鑑別をしながら血液循環を促す生薬が入っている薬剤を考えることなどが挙げられている。しかし、これはまさに漢方薬学の知識であって、ある程度臨床に精通した医師ならば誰もが実践していることであろう。むしろ初学者向きの知識ではない。

本書の位置付けを述べよう。第一に初学者の座学向けの書籍として適していよう。それも薬学の専門家が講義を担当して、多少の時間をかけて理解を深めるのに向いている。形態と内容から、携帯して回診したり診療卓に置いて常時参照したりするには実用的でない。

また本書の記述はツムラの製品に即しているが、そのほかの会社の製品には該当しない部分がある

ので注意してほしい。各論で示される用法用量などは、各社製品について改めて確認を必要とする。

本書はその実利主義的なタイトルにもかかわらず、臨床に精通した漢方医が簡潔にその蘊蓄のあるところを披露するといったたぐいの入門書ではない。むしろ漢方医学をめぐるある種の思想書というのがふさわしい。なぜなら、総論には従来の漢方医学のスタイルに対する厳しい批判が込められているからである。望みたいことは、入門書とするために総論に十分なスペースが割かれていないので、ここだけを展開発展させて執筆していただきたいことである。警世の一書となること疑いなしである。

最後に本書の長所として挙げられるのは、医療用漢方製剤の方剤としての寒熱を明確にしたことだ。虚だの実だのを千万言費やすよりも入門書として必要な知識である。冷える人には原則的に温薬で治療し、熱する人には原則的に寒涼薬で治療する、これこそ随証治療の第一歩であるからである。

●B5 頁 416 2010 年  
定価 6,090 円  
(本体 5,800 円+税 5%)  
[ISBN978-4-260-01045-0]  
医学書院 刊